

平成25年1-3月期の四半期別GDP速報の概要

経済社会総合研究所国民経済計算部国民支出課課長補佐
三谷 将大

5月16日に公表した平成25年1-3月期四半期別GDP速報(1次QE)では、実質GDP成長率は0.9%(年率3.5%)、名目GDP成長率は0.4%(年率1.5%)と、2四半期連続のプラスとなった。以下では今回QEの概要について解説する。詳細は国民経済計算のウェブサイトをご覧願いたい(http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/sokuhou/sokuhou_top.html)。

なお、以下の計数は、特段の断りがない限り、実質値の季節調整済前期比、カッコ内は実質GDP成長率への寄与度を示す。

1. 民間需要の動向

民間最終消費支出は+0.9%(+0.6%)と、2四半期連続のプラスとなった。サービス(外食、レクリエーション等)、耐久財(自動車等)、半耐久財(衣服等)及び非耐久財(飲食料品等)のいずれも、プラスに寄与したとみられる。

民間住宅は+1.9%(+0.1%)と、4四半期連続のプラスとなった。復興需要による住宅建設の増加が背景にあるとみられる。

民間企業設備は▲0.7%(▲0.1%)と、5四半期連続のマイナスとなった。産業機械等が減少に寄与したとみられる。

民間在庫品増加(寄与度)は▲0.2%と、2四半期連続のマイナス寄与となった。

2. 公的需要の動向

政府最終消費支出は+0.6%(+0.1%)と、12四半期連続のプラスとなった。現物社会給付が医療費等の動きを反映し増加傾向にあり、増加基調の要因となっている。

公的固定資本形成は+0.8%(+0.0%)と、5四

半期連続のプラスとなった。東北地方における増加が顕著であり、被災地の公共工事を中心に増加しているとみられる。

公的在庫品増加(寄与度)は▲0.0%と、横ばい圏内の動きとなった。

3. 輸出入の動向

財貨・サービスの輸出入は、輸出が+3.8%(+0.5%)、輸入が+1.0%(▲0.2%)と、輸出入ともにプラスに転じた。うち財貨について、輸出の増加(+3.3%)に寄与した品目は自動車等、輸入の増加(+1.0%)に寄与した品目は原油・天然ガス等とみられる。

純輸出(輸出-輸入。寄与度)は+0.4%であり、4四半期ぶりのプラス寄与となった。

4. デフレーターの動向

GDPデフレーター(前年同期比)は▲1.2%と、前期の▲0.7%と比べマイナス幅が拡大した。また、GDPデフレーター(季節調整済前期比)は▲0.5%となった。いずれも、輸出デフレーターよりも輸入デフレーターが相対的に大きく上昇しており、GDPデフレーターの下押しに寄与している。

5. GNI(国民総所得)の動向

GNIは、実質、名目ともに+0.4%と、2四半期連続のプラスとなった。海外からの純所得がともに0.0%の寄与であった一方、実質について交易利得が▲0.5%の寄与となった。

なお、平成25年1-3月期2次QEの公表は、6月10日(月)を予定している。

三谷 将大(みたに まさひろ)